

貧交行（杜甫）

手を 翻せば 雲と 作り 手を 覆せば 雨

紛々たる 輕薄 何ぞ 数うるを 須いん

君 見ずや 管鮑 貧時の 交わり

此の道 今人 棄てて 土の 如し

翻手作雲覆手雨 紛紛輕薄何須數
君不見管鮑貧時交 此道今人棄如土

解説 世間の交友の輕薄なのを憤慨しての作。

語釈 ※貧交行 貧しい者の交わりの歌の意。 ※翻手 手のひらを上に向けること。 ※雲・雨 交友の情に変転して常のないことをたとえて言う。 ※覆手 手のひらを下に向けること。 *紛々 数の多いさま。 ごとごと入り乱れるさま。 ※輕薄 眞心がなく利害によって親しく交わったり疎んじたりする者。 ※何須數 何で数える必要があるうか、その必要はない。 ※君 ここでは世間一般の人をいう。 ※管鮑貧時交 春秋時代の管仲と鮑叔との親しい交友をいう。 ※此道 管鮑の様な交友の道。 ※棄如土 一文の値打ちもない土のように棄ててかえりみないこと。

通釈 手のひらを上に向けるたり、手のひらを下に向けたりするような人の心はすぐ変わってしまう。 輕薄な人は世間に沢山いて数える必要も無いほどである。 あなたは見たことが有りませんか、管仲と鮑叔の貧しかった時の交わりを。 このような交友を今の人は土を棄てるようにまるで顧みない。